

令和2年度がん診療連携拠点病院等「PDCAサイクル評価シート」

部 門		評価項目	Plan(計画) 2020.07
作業部会	がん登録部会	1.がん登録の精度向上を図る	1.実務者のスキルアップを図るため積極的に各種研修会等に参加する。 ①秋田県院内がん登録実務者研修会 ②東北がんネット主催研修会 ③国立がんセンター主催研修会 ④e-learning
		2.がん登録の認知度を高める	1-2.各施設に院内がん登録中級者認定試験合格者を一人以上配置する。 市民にがん登録の存在と重要性を理解してもらうよう協議会HPを通じて啓発活動を行う。
		3.がん登録データの自己解析能を高める	院内がん登録データによる病期別5年相対生存率を各施設で自己算出する。
	緩和ケア・教育研修部会	1.がん診療連携拠点病院等の緩和ケア提供体制の改善に向けた相互評価体制を構築する	1) 国立がん研究センターの支援を受け、オンライン上で大曲厚生医療センターでのピアレビューを実施する。(実施時期:10~11月) 2) 1)の実施結果をもとに、令和3年度以降の体制について検討する。
		2.がん診療連携拠点病院等におけるアドバンス・ケア・プランニングを含めた意思決定支援を提供できる体制を整備する	1) 「人生の最終段階を自分のこととして考える時期にある患者」への意思決定支援に関する取り組みについてアンケート調査を行い、進捗状況を把握する。(実施時期:10月以降) 2) 体制整備が進んでいる病院より具体的な取り組みの紹介を行い、病院間での情報共有を図る。
		3.患者・家族、地域住民が緩和ケアへの理解を深め、どこにいても緩和ケアにアクセスできる体制を構築する	1) がん診療連携拠点病院等と2次医療圏の非拠点病院との連携体制を構築する 2) 秋田県内の緩和ケア・がん関連の研修会一覧作成と広報活動 3) 秋田県内緩和ケアマップのデータ更新
		4.がん診療連携拠点病院等における緩和ケアの質の向上	1) 秋田県内緩和ケアチームTVカンファレンスの開催 2) せん妄ケア研修の開催(12月4、5日予定)
	がん患者相談部会	1.就労支援の関係機関との連携を図り、活動を展開する	1.がん患者等就労実態調査を県と協働で実施し、5年間の就労支援の取り組みを評価する
		2.がん相談対応能力向上のため、必要な研修を企画・実施し、均てん化を図る	2.がん相談対応能力向上と質保証のため、「相談対応の質保証を学ぶ」研修を検討する
		3.広報活動を展開し、がん相談支援センターの認知度向上と周知を図る	3-1.「がん情報ガイド」の改訂版を発行する 3-2.県立図書館と連携した事業を継続する
化学療法・放射線療法部会	1.各拠点病院等の化学療法の実施状況を調査する	外来化学療法の件数、すべての化学療法に占める割合、スタッフ数との関連を調査する。	
	2.各拠点病院等の放射線療法の実施状況を調査する	放射線療法の件数、種別、スタッフ数との関連を調査する。	
大館市立総合病院	放射線科	1.急性期有害事象対策の標準化を図る	急性期有害事象対策マニュアル・ケアマニュアルを発行し、放射線科外来・病棟との標準化したケアを行う
		2.根治的照射の治療完遂100%を継続する	・完遂出来る様に患者パンフレットの見直しと充実を図り、治療完遂する意味を患者への理解とつなげる ・患者が仕事をしながら治療を続けられるように治療時間の調整、有害事象へのケア、精神的支援を行う。
	化学療法	1.院内の支持療法の体制を整備する。	制吐剤の標準化を行う。
		2.安全なレジメン運用をチーム医療で実践する。	免疫チェックポイント阻害剤の処方・副作用対策を院内のチームで実践する。
		3.連携充実加算のための体制を整備する。	外来化学療法に関わるスタッフと、地域の薬局の薬剤師との勉強会を行う。
	がん登録室	1.がん登録実務者を育成する	・5年計画でがん登録実務者の達成目標をたてる ・初級実務者に5大癌登録の指導を継続する
		2.がん登録の精度を高める	・がん登録の精度を高める
	がん相談	1.がん患者医療用補正具事業の申請を支援し、試着会を開催する。	①がん患者医療用補正具事業の申請希望者に対して申請手続きの説明を随時行う。 ②医療用補正具試着会の実施を継続して行う。
		2.がん診療体制等の広報・啓発活動を図る。	①「あきたがん情報ガイド」や当院のパンフレット等を講演会や研修会等の際に積極的に配布する。 ②栗盛記念図書館や大館市内の公共施設へパンフレット等を設置する。
		3.セカンドオピニオンの周知・宣伝活動を強化する。	①セカンドオピニオンについてのリーフレットやポスターを改訂する。 ②セカンドオピニオンの相談窓口を明記し、相談対応の均一化を図る。
緩和ケア	1.早期からの緩和ケアを実施する	・入院時の苦痛のスクリーニングの実施率を75%以上に向上できるよう、緩和ケアリクナースとともに取り組む。 ・外来での苦痛のスクリーニングの対象者拡大に向けて、外来看護師とフローを検討し、実施につなげる。	
	2.地域の医療・福祉の専門職との連携を強化し、緩和ケアの質の向上を図る	・緩和ケアチーム介入患者で在宅緩和ケアに移行となったケースに関して、担当の訪問看護やケアマネジャー等とケースの振り返りを実施する。 ・新型コロナウイルス感染症が終息次第、地域の医療・福祉の専門職を対象にした緩和ケアに関する研修会や事例検討会を再度企画し、実施する。	
	3.終末期の家族ケアの質の向上を図る	・当院の終末期の家族ケアの現状を知り、課題を明らかにする。	
秋田厚生医療センター	がん登録	1.がん登録の精度向上を図る	がん登録の精度向上のために積極的に各種研修会に参加する
		2.自施設のがん登録データを解析する	自施設のがん登録データを解析し、院内への周知を強化する ・QI研究 ・5年相対生存率
		3.がん登録データの認知度を高める	がん登録データの認知度を高める。 当院HPや年報等へのデータ掲載を継続する
	緩和ケア・教育研修	1.苦痛のスクリーニングの継続、外来での運用を検討する	外来でのスクリーニングについて検討する ・外来でのスクリーニング実施の問題点を明らかにする ・問題点の解決に向けて、外来看護師と共に検討する ・対応希望時のフローについて検討する
		2.オピオイドの適正使用に向けたマニュアルの作成	オピオイドの適正使用に向けての課題を明らかにする ・緩和ケアマニュアルの見直し ・ポケットサイズのマニュアル作成について内容を検討
	がん地域連携	1.当センター独自のがん地域連携バスの作成	当センター独自のがん地域連携バスの作成を今年度中に行う
		2.相手先クリニックの選択 協力依頼	相手先クリニックの選択 協力依頼
	がん患者相談	1.がん相談支援センターの周知とネットワークの強化を図る	がん相談支援センターを院内外に周知する 「がんサロン」開催を継続する アピアランス主体のサロンを開催する
		2.がん相談対応能力向上のため必要な研修に参加する	がん相談員研修を企画・実施し参加することで、がん相談対応能力の向上を図る
		3.就労支援の関係機関との連携を強化し出張相談実績を増やす	就労支援についてハローワーク秋田と情報共有しながら院内での支援に取り組む 出張相談件数を増やし、辞めない支援・辞めかたの支援に取り組む
化学療法・放射線療法	1.入院外来ともに化学療法に携わる看護師の質の向上	・化学療法患者の入院と外来と連携 ・がん看護の教育 OJT教育の継続	
	2.看護外来の開設	・看護外来開設	
	3.副作用対策プロトコルの実施件数	化学療法室増床後、安全に稼働できる体制の維持 ・スタッフの育成、指導 ・緊急時、血管外漏出時のシミュレーションの実施 ・各科外来との協力体制	
	4.がん認定薬剤師数	副作用対策プロトコルを活用し副作用対策支援を強化する	
	5.連携充実加算の算定要件、施設基準のクリア	がん医療に携わる専門的な薬剤師を育成する	
	6.令和2年度の放射線治療件数200件以上	調剤薬局との連携を強化する	
	7.令和2年度の緩和的放射線治療件数100件以上	治療成績が良好な前立腺癌に対する強度変調放射線治療と1期肺癌に対する体幹部定位放射線治療の普及のための活動をおこない、多くの患者により良い治療を提供することで放射線治療患者数の増加を目指す 骨転移症例に関する緩和的放射線治療の適応判断において、放射線治療医が積極的に提案する機会を提供するために、骨転移緩和照射カンファレンスを設立する。患者が緩和的放射線治療のメリットを適切に享受できるよう院内体制を整備し、緩和的放射線治療患者数の増加を目指す。	
秋田赤十字病院	がん登録	1.院内がん登録の精度向上を図る	・実務者は積極的に各種研修会等に参加する ・登録データの品質管理を定期的に行う
		2.院内がん登録データの分析を行う	・院内がん登録による、生存率を算出する ・QI研究の解析を行う
	緩和ケア	1.緩和ケアの質が向上する	1)緩和ケア診療加算算定の体制を整える 2)TVカンファレンスに参加し、他施設との情報共有・情報交換に積極的に取り組む 3)せん妄ケア研修会を実施し、せん妄ケアの質向上を図る 4)がん看護外来の体制見直しを図る
		2.地域がん診療連携拠点病院として緩和ケア分野で必要とされるACPの院内体制の見直しを図る	1)ACPIに関して緩和ケアチームメンバー間で共通認識する機会をもつ 2)院内の手順書の見直しを図る
		1.地域の医療従事者を対象とした合同カンファレンスを開催する	地域の医療従事者を対象とした合同カンファレンスを開催する(年1回)
		2.がんに関連する症例検討会を、地域の医療従事者を交え開催する	症例検討中心とした研修会を、地域の医療従事者を交え定期的に開催し、地域医療機関との連携強化を推進する
	地域連携	3.がん地域連携バスについて共通認識を図る	がん地域連携バスについて学び、理解を深める ・他院の活用状況などを知り、がん地域連携バスについて共通認識を図る
		1.がん相談支援センター業務マニュアルの見直し・更新	がん相談支援センター業務マニュアルの見直し・更新をする
	がん相談	2.がん治療を受ける患者の就職支援・治療と仕事の両立支援の継続	1)ハローワーク秋田、秋田産業保健総合支援センターと連携し就労支援を継続する 2)医療スタッフに対し、がん治療と仕事の両立支援、就職支援について周知する 3)がん患者に対する病名告知直後に患者が退職しないように、病状説明に同席した看護師が支援する
		3.がん相談員の養成	がん相談員の養成を行う。
4.AYA世代がん患者のニーズの把握と情報提供		AYA世代がん患者のニーズの把握とAYA世代がん患者への情報提供を行う。	
1.がん薬物療法における曝露対策を推進する 1)抗がん剤による曝露を低減するための体制を整備する		1)閉鎖式薬物移送システム導入に向けて各部署に働きかける 2)曝露対策に関する院内教育の強化 ①安全な取扱いを遵守できるよう基準を整備する ②HDの安全な取扱いに関する研修を開催する	
放射線科	1.依頼科・他科との連携	患者中心の放射線治療を行うために依頼科や関連科との連携を密に行い、適切な治療計画を立案する	
	2.適切な治療計画の立案	治療の継続のため、患者に対し効果、副作用等の説明を十分に行い理解を得る	
	3.安全・安楽な放射線治療	放射線治療に伴う医療事故防止に努め、副作用の軽減を図る	
薬剤部	1.がん化学療法のレジメンの適正化	入院化学療法のレジメンオーダー化を実施し安全で適正治療を提供する	
	2.地域医療機関との連携	他施設、保険薬局と合同研修会の開催	



令和2年度がん診療連携拠点病院等「PDCAサイクル評価シート」

大曲厚生医療センター	がん登録	1.がん登録の精度向上を図る	参加者のスキルアップを図るため積極的に各種研修会に参加する
		緩和ケア	1.一般病棟での緩和ケアの質の向上
	2.専門的緩和ケアの紹介率の向上		スクリーニングから緩和ケアチーム依頼の紹介率を増やす。一般外来でのスクリーニングの実施を目指す。
	がん相談	1.がん相談支援センターの周知と支援の強化を図る	がん支援に関わる関係機関と情報共有しながら支援の検討に取り組む アピランス支援の活動を行なう 院内がんサロンの実施
		2.就労支援の院内の周知と実施	就労支援に関わる関係機関と連携しながら支援の検討に取り組む 院内出張相談の実施
		3.がん相談対応能力の向上と関係機関との連携強化	相談員対象の研修やフォーラムへ参加し、がん相談支援に関するスキルアップを図る
がんクリバス	1.地域連携クリティカルパスの運用件数を知る	がん地域連携クリティカルパスの運用件数を知る 5件以上/年間	
	2.地域連携の強化	多職種連携の研修会等に参加し、知識を深める	
平鹿総合病院		1.当院におけるがん診療の現状を把握し、課題を明確にする。	本年度は1回、各部門の代表者による院内がん連携協議会を開催し、各部門における課題の把握、取り組みの進捗状況について報告する。
		2.各部門の連携を強化する	上記会議において提案された課題のうち、院内にて改善可能なものについて、医局会/診療部長会議などを通して周知する。
		3.地域とがん診療を連携する	「早期胃癌内視鏡治療後連携パス」の周知、利用に努める。
能代厚生医療センター		1.早期からの緩和ケア実施	早期からの緩和ケア実施 ①がん患者入院時全員に苦痛のスクリーニング ②苦痛ありの患者に病棟スタッフが対応記録 ③スクリーニング結果は緩和ケアチームに報告 ④専門的緩和ケアが必要な患者へ緩和ケアチーム介入
		2.チーム医療の推進	チーム医療の推進 ①多職種の緩和ケアチーム回診（毎水曜日、依頼時、状態変化時） ②多職種の緩和ケアチームカンファレンス（毎水曜日） ③院内、院外において多職種の緩和ケアチーム活動（医師、薬剤師、作業療法士、管理栄養士、看護師、臨床心理士、ケースワーカー）
		3.緩和ケアの感性・知識を持つスタッフの育成	緩和ケアの感性・知識を持つスタッフの育成 ①院内の緩和ケア勉強会（年3回）e-learning活用 ②緩和ケア通信発行・HP掲載（年4回） ③院外の緩和ケア関連勉強会、研修会、実地研修などの参加促し ④秋田県がん診療連携協議会、緩和ケア教育研修会活動（年2回） ⑤秋田県緩和ケアチーム TVカンファレンス（年8回）
		4.がん相談能力向上のため、研修会等へ積極的に研修会に参加し均てん化を図る。	各種研修会へ参加し、援助技術・知識の習得に努める
		5.広報活動を行い、がん相談支援センターの周知とネットワーク強化を図る。	広報ワーキンググループ活動に参加し、がん相談支援センターの周知とネットワーク強化を図る。
		6.秋田県がん支援連絡協議会と連携し、活動を行う。	ハローワーク能代と就労支援協定を締結したことを受け、患者支援に努める。
		7.がん登録業務の質の向上、実務者のスキルアップ	がん登録業務に費やす時間を増やし、効率的に業務を行う。
		8.がん登録に係る研修会へ参加し、業務の向上へ繋げる	がん登録に係る研修会に参加（目標：2回/年）
		9.予後判明率の向上を目指す	予後判明率の向上（＊2012年症例5年相対生存率の予後判明率：73%）
		10.当院のがん薬物療法分野において現状での問題点を抽出することができる	これまでのデータを参照しながらがん薬物療法の問題点を改善すべき点を抽出する
		11.当院のがん薬物療法分野の問題点を改善していくための具体策を考えていく	問題点を改善するために必要な具体策を考えていく。医師、薬剤師、看護師、事務部門と多職種が集まり話し合う場を設け、様々な面で意見を集約する。新型コロナウイルスの影響もあるため、書面での意見集約も検討。
拠点部病院等 由利組合総合病院	病院全体	1.院内のがん対策専門部会がそれぞれの機能を発揮する。	下記の専門部会を置く(担当者:3~4名) ①がん登録部会 ②緩和ケア部会 ③地域連携部会 ④相談支援部会 ⑤化学療法部会 ⑥放射線治療部会 1-2 専門部会毎にPDCAサイクル評価シートを作成する。 1-3 1)少なくとも2回、各部会の全体会合を行う。2)全職員を対象とした各専門部会の活動報告会を積極的に開催する。
		2.禁煙・受動喫煙防止を進める。	新患の喫煙歴聴取を更に徹底し、年度末にその聴取率を算出する。
	がん登録部会	1.がん登録実務の精度向上を図る	実務者のスキルアップを図るため研修会等に参加する。
		2.がん登録状況の情報開示を行う	登録数や各治療法のがん種別件数等について病院ホームページに掲載する。
		3.がん登録データを活用して情報提供を行う	ステージ別の生存率を算出する。
	緩和ケア部会	1.基本的な緩和ケアの普及	がん診療に携わる全ての医師が令和2年度内に緩和ケア研修を修了する。 ・がん患者の主治医や担当者となる医師に対しては、直接 声をかけて参加を促す。 ・当直業務などでがん患者に対する診療を行うことがある医師に対しては、科長会議で周知を図り、参加を促す。
		2.早期からの緩和ケアの提供	苦痛のスクリーニングを実施する。 ・対象者は、外科外来化学療法患者とする。 ・スクリーニング陽性患者に対し、多職種で早期に対応していく。
	地域連携部会	1.がん地域連携バス運用に向けた取り組み	院内関連部署との連携(病棟・医事課) (情報提供、患者説明など)
			院外関係施設への周知 (診療報酬も含めた情報提供)
	相談支援部会	1.がん患者や家族、地域住民ががん相談支援センターの役割を知り、活用できる	がん相談支援センターの周知 1)がん相談支援センターのポスター掲示 2)病院ホームページや市政だよりで広報 3)由利本荘市中央図書館でポスター掲示
就労支援相談窓口の普及啓発 1)両立支援コーディネーター研修参加 2)就労支援窓口として周知 3)療養・就労両立支援指導ができる			
化学療法部会	1.月毎の「がん患者指導管理料イ」算定件数	「がん患者指導管理料イ」算定件数を増やす	
	2.連携充実加算算定件数	連携充実加算算定のための体制の整備を行う	
放射線治療部会	1.放射線治療の実態調査	昨年度に引き続き、県内の放射線治療患者数を調査し、県内における当院の現状を把握する。	
	2.放射線治療体制について	看護師の介入がなく、診療放射線技師のみで行っている現在の放射線治療の提供体制について、今後の対策を検討する。	
雄勝中央病院		1.がん登録の情報収集、スキルアップを図る	1-1.がん登録の情報収集のため、積極的に研修会へ参加する。 1-2.がん登録のスキルアップ、登録精度の向上のため、院内がん登録中級者を一名配置する。
		2.苦痛のスクリーニングの効果的な活用と緩和ケア相談介入	苦痛のスクリーニング結果の評価と継続を行い、スクリーニング陽性患者に対する緩和ケア相談及び緩和ケアチームの介入
		3.緩和ケア、がん相談についてリソースとして活用の向上	緩和ケア・がん相談について院内及び役所関連機関にて情報提供と啓蒙活動を継続的に実施する。また、リソースとして活用してもらう。
市立秋田総合病院		1.がん登録実務者のスキルアップを図る	がん登録実務者のスキルアップを図る ①秋田県がん登録実務者研修会 ②岩手県がん登録実務者研修会 ③国産がん研究センター主催研修会 ④中級認定者の更新を行う
		2.予後情報把握と生存率算出	自院の予後情報把握に努め、5年予後判明率90%以上を維持するようにする。
		3.ホームページ掲載データの更新	院内がん登録データおよび5年相対生存について自院のホームページ掲載データを更新する。5大がん以外の5年相対生存率についても算出する。
		4.苦痛のスクリーニング実施率	入院時スクリーニング実施率60%
		5.アドバンスケアプランニングの整備	アドバンスケアプランニングの整備と院内周知。
		6.がん相談支援センターにおけるデータの精度向上を図る	定期的に相談内容及び対応の分析を実施し、データの精度管理を行う。
		7.チーム医療の実践	irAE対策としてチーム医療の実践。
中通総合病院		1.外来通院中のがん患者への緩和ケア提供体制の改善を図る。	緩和ケア外来の診療患者数を増やす。 消化器がん患者から、緩和ケア外来診療への移行をすすめる。 ＊昨年度、年間診療患者数1名
		2.医療スタッフの緩和ケアに対する知識と技術の向上を図る。	終末期患者家族への悲嘆のケアが充実するよう標準看護計画を提示する。
		3.外来化学療法患者へのケアの充実を図る。	他職種連携により外来化学療法充実加算が算定できるよう委員会を検討する
北秋田市民病院		1.がん登録の精度向上	がん登録研修などに積極的に参加し、スキルアップを図る
		2.がん登録の認知度を高める	ホームページ等のがん登録情報の情報提供を継続する
		3.がん登録のデータ解析の実施	生存率などのデータ解析を行う
		4.早期からの緩和ケアの実施	入院患者のスクリーニングの実施率を上げ、苦痛のあるがん患者、非がん患者に早期から介入する(専門的緩和ケアへの紹介につなげる)
		5.緩和ケアの質の向上を図る	リンクナースと緩和ケアチームの連携強化 緩和ケア研修会への参加者を増やす
		6.化学療法法中止件数の把握	化学療法法中止件数を把握する
		7.連携充実加算の算定	今年度新設された連携充実加算の算定要件を整備し、保険薬局との情報共有を行う
		8.がん地域連携クリティカルパスの普及	5大がん連携パスの登録件数増加にむけた市民向け、医療機関向けの周知啓蒙活動
		9.地域連携の強化	連携医療機関への訪問
		10.地域連携室職員の知識、技能の向上を図る	5大がん連携パス運用患者数および進捗状況の把握
		11.がん相談支援センターの活用と相談件数の向上	院内外でのがん相談の広報活動 他医療機関(クリニック、診療所など)との連携を図る 院内での情報収集や必要な情報提供を行い、がん相談の活用を広げる
		12.がんサロンの充実を図る	リソースを活用しての勉強会開催(開催日は、広報や新聞などでアピールする) 月1回サロン開催(年1回程度市のサロンと交流)